

きぼうの虹フォトコンテスト特選作品
 「楡の若葉輝くごとく」
 村橋 究理基(大学院理学院 研究生)



発行所
 北海道大学生協同組合
 札幌市北区北8条西7丁目
 教職員委員会編集
 電話 011-746-6218

主な記事紹介

三面 SDGs 第2回
 四面-五面 北大生協きぼうの虹フォトコンテスト審査結果発表!!
 八面 大学文書館へ行こう 第16回

北海道大学SDGs 加藤 悟
 北海道文書館学井上 高聡

2021年に札幌市東区にヒグマが出没し、4名の方が怪我をした事故が記憶に新しいように、北海道ではヒグマの出没や人身被害が年々深刻化しています。私は本学に教員として着任して以来、約15年間、知床半島を主なフィールドとしてヒグマの生態を研究して参りました。私が感じたクマの変化と今後必要とされることについて簡単ですが私見を述べさせていただきます。

①「知床化」する全道のヒグマ
 多くの観光客が訪れる知床国立公園内では、人を恐れずに行動するヒグマを度々見かけます。この人に慣れたクマはかつて「新世代ベアー」と呼ばれ、普通のクマとは区別されてきました。近年は人に対する警戒心の薄い個体が都市部でも散見され「アーバンベアー」と呼ばれるようになりました。このようなクマの変化には様々な要因がありますが、端的に言うと、人の生活の変化に起因しています。30年ほど前まではクマの駆除が推奨され、高値で取引されていたことから、クマ撃ちが頻繁に行われていました。この頃クマにとって人間は命を脅かす恐ろしい存在であったに違いありません。しかし時を経て、狩猟者の減少や高齢化が進むにつれ、「人

間」怖いもの」とクマが学習する機会が失われています。人に慣れたクマは、人に対して過敏な反応を示しにくいいため、人への攻撃性という点では低いのですが、それでもクマはクマです。

これからのクマとの付き合い方

北海道大学
 大学院獣医学研究科
 環境獣医学分野
 野生動物学教室准教授
 下鶴 倫人

Opinion!

②「誰がやるのか」という問題
 年々増え続けるクマ問題に対し、北海道は管理計画を策定し、対策を進めています。軸となるのは「ゾーニング」と呼ばれるもので、クマが出没した場合のリスク等に応じて区分けをし、それぞれのゾーンで講じる対策を定めるというものです。ヒグマは森林生態系において非常に重要な役割を果たしている動物であり、闇雲に

駆除すればいいということはありません。人里との距離やクマの行動に応じ、捕殺を含めた適切な対応をとる必要があります。また増え続けるヒグマの数を管理すべく、個体数削減に向けた具体的な方策の検討が必要な状況にきています。しかし、こういったヒグマ管理を「誰が担うのか」については不明瞭なままです。これまでのヒグマ対応は、地元のハンターさんたちがほぼ全てを担ってきました。しかし本来の彼らは「狩猟愛好家」であり、この任務を担わなければならない立場ではありません。一方、クマに対峙するということは銃を有していれば誰でもできる事ではありません。技術を有する野生動物対策の専門家を育成し、配備することが喫緊の課題として残されています。

以上、簡単ですが昨今のクマ問題に対して思うところを述べさせていただきます。今後どうしていくべきかについては、私が理事を務める市民団体ヒグマの会が「グラウンドデザイン」という形で詳細にまとめたものを近日公開予定です。ご興味のある方は是非ホームページ等で検索してご覧頂けたら幸いです。

2023年度 通常総代会を開催しました

2022年度を振り返り、2023年度の計画と予算を決定しました

総代168名(本人出席67名、書面出席101名)の参加により、全ての議案が賛成多数で可決成立いたしました。

2023年度通常総代会は5月25日(木)開催

議長に森さん(大学院修士1年)を選出し、坂爪理事長(農学研究科教員)が生協理事会を代表して挨拶をしました。続いて、田代常務理事(工学部3年)と小助川専務理事が第1号議案を提案、芳賀監事会議長(先端生命科学研究所教員)が監査報告を行い、質疑・討論に入りました。4年ぶりに会場への出席と発言による討論を行いました。総代からの発言をいただき、小助川専務理事が回答しました。事前に寄せられた質問や意見を含めて、報告書にてQ&A形式でご紹介します。

理事会からのまとめの後、表決を行い、全議案を賛成多数で承認・決定しました。

た。また、役員選挙は立候補がなかったため定数内の理事会推薦者全員の当選が役員選挙管理委員長より報告され、下記の役員を確認しました。以上をもってすべての議事が終了しました。なお終了後は工学部食堂に移り、軽食をとりながらの交流会を開催しました。

3カ年再生計画と2023年度の事業計画

累積赤字を抱えている現状から経営再生を行うために「北大生協三カ年再生計画」を総代会で決定いたしました。組織課題と事業課題でポイントを設定し、2025年度までに累積赤字を圧縮する計画です。2023年度事業計画と予算も決定いたしました。3カ年再生計画に沿った内容となっております。2022年度末での累積赤字が約1億2千5百万円となり、昨年度からは大幅に減少させましたが、なお解消に時間がかかる見込みです。

北大生協は今後も「組合員同士や生協と組合員とのつながりを大切に、必

要とされる生協を目指します」「大学の発展と魅力ある大学づくりに貢献し、大学に根付いた存在を目指します」「事業構造の抜本的な見直しを行います」の3つの方針を掲げて、大学の福利厚生への役割を果たしていきます。

あらためて組合員のみならずにも、組合員の声カードや総代会議、利用者ミーティングなどを通じてご意見をいただき「北大の中にある私たちの生協である」実感を持てるよう努めてまいります。みなさまの積極的なご意見と参画をお願いいたします。



2023年度 役員名簿

〈理事長(代表理事)〉

坂爪 浩史

〈専務理事(代表理事)〉

齋藤 真廣

〈理事〉

今村 央

岩佐 俊明

小川 美香子

小篠 隆生

金川 眞行

コリー 紀代

佐々木 好美

林 忠一

石田 きなり

石本 万象

奥山 莉子

萱沼 虎太郎

小松 慎太郎

高木 暉馬

田代 直也

野呂 香綸

羽木 康祐

逸見 京花

渡邊 稀羅

〈監事会議長〉

芳賀 永

〈監事〉

岡野 泰樹

中村 拓也

山崎 瞳子

いじわるじいさん

NHK「市民と核兵器」ウクライナ 危機の中の対話」(5月20日)を見て考えさせられている▼1994年に核を放棄したウクライナ。そこで生まれ、日本で中学まで育った青年ボグダン は、核兵器があれば、ロシアの侵攻はなかったのでは?と問い続ける。国では必要と答える人が少なくない中、思いがけない意見に出会う。核がへあつたとして、どこに撃つ?撃てないでしょ、負傷者の治療にあたる医師の言葉だった▼私は、医師の言葉に促されるように『夏の花』(原民喜著)を読み返した。描かれていたのは、被爆直後、水を求めて呻く黒焦げの顔、蛆まみれで死んでいく人:死骸はそのまま山になっっている。原子爆弾を落としてはならないことを示す広島島の光景だった▼市民との対話の後、ボグダンは再考していた。自分達がロシアの核の脅しにひるまなかつたら、と。それが先例になって核にひるまない国ができるかもしれない。その時には、核を持つ意味がなくなるのではないか▼5月に広島で主要7カ国首脳会議が開催され、核の抑止力を肯定する「広島ビジョン」が発出された。それにあらがうかのように、彼は原発爆発の危機が迫る戦況の下、ウクライナから情報発信を続けている。被爆国日本の私には他人事とは思えない。(今日子)

SDGs

連載 第2回

「SDGsウェディングケーキモデル」

北海道大学SDGs事業推進本部 教授 加藤 悟



SDGs (Sustainable Development Goals) が「2030アジェンダ」(我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ)の中に示された目標である。だから、17の目標だけでなく、一度はこの文書を読んで欲しいと授業で伝えている。目標はあくまでツールであり、文書の中には、2015年当時の世界の価値観が書かれているからである。

その「2030アジェンダ」には、「これらの目標及びターゲットは、統合され不可分のものであり、持続可能な開発の三側面、すなわち経済、社会及び環境の三側面を調和させるものである。」と書かれている。この考え方を図示したものが「SDGsウェディングケーキモデル」である。17の目標を「環境 (Biosphere)」「社会 (Society)」「経済 (Economy)」の3層構造で示したものである。2016年に、ストックホルムにあるレジリエンス・センターのヨハン・ロックストローム氏や、パヴァン・スクデフ氏らによって提唱された。この図は、すべての目標が密接につながっており、相乗的な効果があることも、相反する作用があることもあり、個別に達成するものではないこと、だから三側面の調和が重要であることを伝えているのである。



ところで、北海道大学には夏季の6月～10月に最先端の授業を英語で行うHokkaidoサマー・インスティテュート (HSI) がある。本学学生のみならず学外 (海外・国内)、社会人・学生を問わず受講できる教育プログラムがある。2023年度には、工学研究院の瀬戸剛教授らの力も借りながら、「北大ニセコSDGsサマースクール」を開講した。土日に1泊2日のニセコ町現地視察を含むプログラムである。

ニセコ町は、北海道では札幌市、下川町と並んで、「SDGs未来都市」の一つとして2018年に政府に選定された町である。ニセコと言えば、昔は単にスキー場のある町に過ぎなかった。1990年代のスキープームの終焉とともに危機感があつたが、ラフティングなどの夏の観光開発を行い、1999年には、夏場の観光客数が冬の観光客数を上回るほどになった。2010年代、ニセコのパウダースノーが世界で注目を浴び、海外からの冬の観光客が増加し、現在は通年で多くの観光客を迎えている。

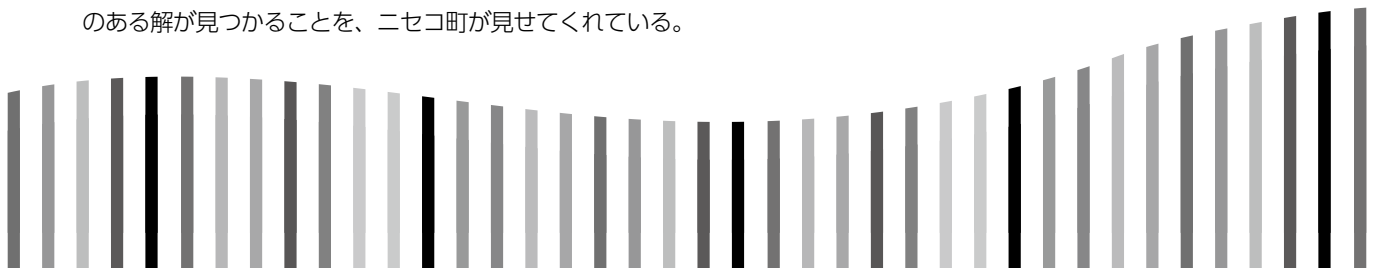
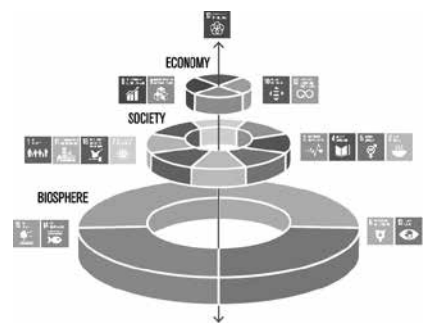
今回のサマースクールでは、ニセコ町によるSDGsの取り組みや、地域振興に取り組むLupiciaなどの地域に根差した民間企業の取り組みを知り、ニセコビュプラザ、有島記念館、そして第2有島ダチョウ牧場の見学などを実施した。

ニセコ町では、2012年から2023年までの12年間の計画として、第5次ニセコ町総合計画を策定している。そこでは、「環境創造都市ニセコ」を掲げ、「将来に亘り農業・観光業を支えるのは環境である」との認識を町内で共有している。

また、札幌農学校卒業生である有島武郎が残した遺訓「相互扶助」は、ニセコ町で脈々と受け継がれている。それは、公共の役割が、社会の様々な格差・差別をなくし、人々が安心して暮らせる社会を創り、貧困をなくし、平和な世界と地球環境をより良く次世代に引き継ぐことであることを意味している。この精神が、「住民参加」と「情報共有」の取り組みに結実している。

2015年3月に環境モデル都市として選定され、2018年にSDGs未来都市に選定された。自然環境を適切に保全し、格差や差別をなくし、人々が安心して暮らす社会を構築し、その上で、観光や農業の経済が回っていく。それを貫くものが住民参加と情報共有、つまりパートナーシップである。これは、SDGsウェディングケーキモデルそのものではないかと改めて理解した。

いくつもの目標に同時に取り組むことはなかなか難しい。しかし、それぞれの目標を常に意識しながら、それら調和を図っていくことで、多様性のある解が見つかることを、ニセコ町が見せてくれている。



2023 ～未来を輝かそう～』審査結果発表!!

「きぼうの虹」フォトコンテストも今年で10回目となりました。テーマは「北大百景2023 ～未来を輝かそう～」。6月1日から30日までの1か月の応募期間で開催いたしました。今年はさらに大学に来る機会が増え、北大の美しい風景を楽しむ様子が感じられる作品が多く寄せられました。全31点の素晴らしい作品の中から各審査員それぞれの感性に響いた作品として、特選1点、各委員会賞4点を選出いたしました。ほかにも素晴らしい作品が多く、今回全てをご紹介できないのが本当に残念です。応募していただいた皆様、本当にありがとうございました。

特選

楡の若葉輝くごとく 村橋 究理基 (研究生)

初夏になり、未来に向かって楡の葉が輝くように、モデルバーンの屋根が照り、水面が煌めく様を一枚に。

●審査員コメント

北キャンパスにあるモデル・バーンは、北大の重要文化財の一つです。その赤い屋根がとても特徴的で、水面に映る姿とともに森の中からでもその存在感に圧倒されます。木々の間から見える青空もモデル・バーンの赤い屋根を引き立てており、構図がとても素晴らしいです。まさに今年のテーマに合う作品です。



学生委員会賞



今日の終わりに 山岸 遥 (学部生)

学校からの帰り道、偶然見つけました。北海道らしい風景に思わずカメラを向けました。

●審査員コメント

とにかく空が綺麗で高評価でした。きれいな光が幻想的ですし、夕焼け空のグラデーションもとても素敵です。可愛い牛も北大らしくていいですね。

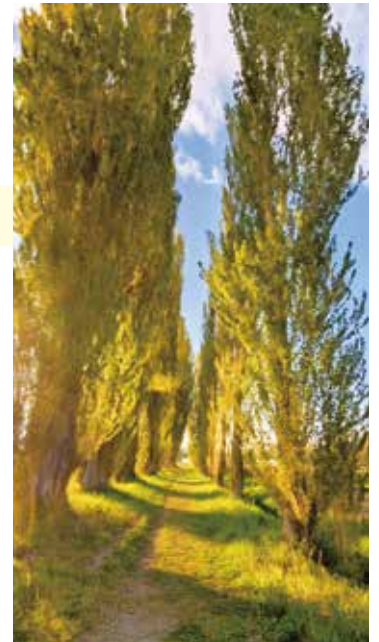
院生委員会賞

陽だまりのポプラで 藤渕 稜平 (学部生)

春になり過ごしやすくなってきた頃、ポプラに暖かな陽が差込み、暖かみと生命力を感じたので撮影しました。

●審査員コメント

太陽の光によって金色に輝くポプラ並木とその背景にある青空のコントラストが非常に美しいです。また、縦向きの写真にも入りきれないポプラの木の存在感、迫力が伝わってきました。額縁に入れて飾りたいです。



第10回 フォトコンテスト 「北大百景」

審査員：学生委員会、院生委員会、留学生委員会、教職員委員会、理事会室

特選および各賞入賞者の皆さんには、生協電子マネーを贈呈いたします。

教職員委員会賞



貴重な晴れ 海野 豊 (学部生)

雪が降り続けていた冬のある日、雲ひとつなく晴れている空に感動を覚え、写真に収めたいと思いました。

●審査員コメント

珍しく晴れた青空の下、雪に埋もれたモデルバーンを収めた一枚から、札幌の厳しい冬の中でも清々しい気持ちになれる時が思い出されます。北大らしい美しい写真です。

理事会室賞

ここだけの景色

音村 茉佑(大学院生)

乗船実習でおしよる丸に乗船した際、船のデッキから見た景色です。

北大水産学部ならではの良さを感じました。

●審査員コメント

おしよる丸に乗船した人だけが撮ることのできる、北大水産学部らしい一枚です。

港を後にして、これからの大海原での乗船実習への期待と不安が伝わってくるようです。

札幌キャンパスではなかなか目にすることのない、青い海と青い空が素敵ですね。



クラーク書籍便り Vol.15

クラーク 6月一般書ランキング

6月は「暇と退屈の倫理学」「言語の本質」など文庫・新書6タイトルがランクイン。4位「52ヘルツのクジラたち」は2021年本屋大賞1位の人気作が文庫化。来年の映画化も決定しています。2位「TOEFL ITPテスト本番模試」は英語Ⅱ追試前の駆け込み需要ですね。結果が大丈夫だったか心配です・・・

	書名	著者名	出版社		書名	著者名	出版社
1	史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集 2025最新版	オフィス海	ナツメ社	6	歴史学研究法	今井登志喜	筑摩書房
2	TOEFL ITPテスト本番模試	田中真紀子	旺文社	7	堤未果のショック・ドクトリン 政府のやりたい放題から身を守る方法	堤未果	幻冬舎
3	TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版	8	暇と退屈の倫理学	國分功一郎	新潮社
4	52ヘルツのクジラたち	町田そのこ	中央公論新社	9	沖縄の生活史	沖縄タイムス社	みずす書房
5	言語の本質	今井むつみ	中央公論新社	10	正欲	朝井リョウ	新潮社

心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

渡邊 誠



今年二〇二三年四月十三日、朝七時半ごろ、テレビのニュースが北朝鮮が弾道ミサイルを発射、との緊急速報を伝えました。やがてJアラート発令。ミサイルが八時頃、北海道周辺に着弾すると予想される、直ちに建物の中に避難せよ。記録によれば、七時五五分です。

その日、朝八時四五分から、北大で授業を担当することになっていました。その科目の初回の授業で、私が責任者です。何度も同じことがあったが何も起こらなかったと思いつつも、もしや本当に危険が迫っていたらということが、頭を過りました。咄嗟に浮かんだのは、一九九五年の阪神・淡路大震災が早朝に発生した時、大渋滞が起こったのは、多くの人が出勤しようとしたからだ、という報告です。今回は時間からして、通学の途中か、あるいはこれから家を出て大学に向かうという人が多いはず。警報が出て通学を見合わせる人は少なすぎて不思議はありません。危険が本物であった場合、避難しなかったことにより失われる命があるだろう、と思いました。

通学を止めて避難するよう、と連絡しなくてはと考えたものの、思い当たる方法は、ELMSという北大の教育情報システムしかありません。あれは、届くのにな少し時間がかかり、間に合わない可能性が高い。しかし、他に手が無い以上、改善の策ではある。記録を見ると、「緊急連絡」登録を一時停止してください」というタイトルでメールを発信したのが、八時九分。届いたのは、九分後の八時一八分でした。災害が起こった時、分単位の時間が生死を分ける場合があるはず。まったく間に合いません。そもそも、Jアラート発令が、着弾予想の五分前です。後から考えると、ミサイル発射の時点でJアラート発令を想定して直ちに連絡をする、いや、あらかじめJアラート発令時は登録しないよう連絡しておくべきだった。それこそまったくの後知事です。誰もが知るとおり、この時は何も起こらな

こころの健康を考える ⑧1

災害は、本物の顔をしてはやって来ない

かったのです。しかし、本当に災害が起こった時でさえ、私たちはそれをわかには信じられない。二〇一一年の東日本大震災の時に、大津波が襲来して街を破壊し尽くしてゆく壮絶な様子は、今もネット上で沢山見ることが出来ます。その時、周囲の人は一様に、信じられないという様子で呆然としていました。えっ！うそーまじやばい！という声は、やがて悲鳴へと変わってゆくのです。もうすぐそこまで津波が迫っているのに、堤防や街路にたたずんで様子を見ている、多くは助からなかったであろう人たちの痛々しい姿も……。私たちは、見たくないものは見ようとしません。起こってほしくないことが起こったことを、容易には認めることが出来ません。これは選択的非注意と呼ばれる知覚の仕組みに基づいたもので、言ってみれば自然なこと。だから、災害が本当に起こった時も、それが本物であることが、すぐにはわかりません。そもそもそういう時の情報は、断片的か、極端に少ないか、あるいはまったく遮断されていることが多いのです。多くの災害の記録が、そのことを伝えてくれます。災害は、本物の顔をしてはやって来ない。そして、本物の顔を見た時は、最期の時だった、ということが、あり得るのです。

津波が来るときは、親も子も関係なく、てんでばらばらに逃げよ、後で生きて会えること信じて逃げよ、という「津波でんでんこ」の教えは、災害時にはとにかく家族一緒にいたがるという人間の普遍的な性(さが)を、越えて生き延びようとする知恵だと思えます。災害に備えるためには、自然な心の働きに反する、苛烈な心も必要なのかもしれません。

ほけんのお話

6月、損害保険料率算出機構が、2019年+4.9%、2021年+10.9%に続いて火災保険(住宅総合保険)の参考料率を改定しました。①平均で13.0%の引き上げ、②水災に関する料率を地域のリスクに応じて5区分に細分化し保険料に差をつける(保険料の最高と最低の比率は12倍)という内容です。風災(台風)、雪災はすでに地域ごとに料率に差があり、水災は今まで全国一律でした。(詳細は「水災料率を細分化します」で検索)

【表1】は北海道の改定率です。この表から札幌市の地域別の改定率の差をみると、M構造(鉄筋コンクリート等耐火構造の共同住宅)15.3%、T構造(M構造以外の耐火構造、鉄骨構造)18.5%、H構造(M、T構造以外、木造等)18.5%の差がつき、保険料の不公平感を緩和するためとはいえ、なかなかの差です。これに建物の築年数、建物や家財の保険金額などを加味して保険料が決まります。【表2】は全国の最低と最高の地域です。【表3】は全国の最低と最高の地域です。お住まいの地域の改定率は、HPで「水災等地域検索」で検索できます。

水災リスクは、河川の氾濫などによる「外水氾濫」、家屋内外の下水道等の逆流による「内水氾濫」、集中豪雨などによる「土砂災害」の3つで、外水氾濫と土砂災害の様子がよく報道されますが、内水氾濫も増えていて、マンション上層階も排水口があふれるなどの事例もあるので要注意です。

今後、この参考料率に基づいて損害保険各社が保険料を改定します。被災時の損害を回復することや被災後の生活再建に備えるため火災保険の加入は必須ですが、保険料が高くなるのは痛い。

【表2】

区分	最低(1等地)	最高(5等地)
M構造	香川+3.7%	宮崎+29.9%
T構造	山形+3.7%	群馬+33.6%
H構造	東京▲1.3%	群馬+27.7%

【表1】

区分	道平均	1等地	2等地	3等地	4等地	5等地
M構造	+12.2%	+6.4%	+9.7%	+13.2%	+17.3%	+21.7%
T構造	+12.3%	+5.4%	+9.3%	+13.8%	+18.6%	+23.9%
H構造	+10.1%	+3.2%	+7.2%	+11.5%	+16.3%	+21.7%
札幌市の該当地域		豊、南	中、厚、清	東、白	北、手	該当なし

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

北大生協組織委員会報告

学生委員会

■自転車点検会を実施しました！

5月10日(水)と5月11日(木)、10時～15時に体育館前で自転車点検会を実施しました。2日間で約150名にご参加いただきました。参加した方より、「丁寧に対応してもらえた」「無料点検がありがたい」などのお言葉をいただきました。また、同時に北大周辺の白地図を用意して危険だと思ふ場所にシールを貼っていただき、ハザードマップを作成しました。



■Letter vol. 5225遊べよ
おまいら〜発行しました！

7月頭に学生委員会で作成している機関誌「Letter」を発行しました。「遊び」をテーマに、ゲームや旅行、ごはんやショッピングなどの記事を作成しました。食堂・購買に配架しておりますので、興味のある方はぜひ手に取って読んでみてください。



院生委員会

■7月総代のつどいを開催しました。

7月には学生委員会と協力しながら「総代のつどい」を計2回開催しました。学部生総代と院生総代がミニゲームやトークで親睦を深めたり、食堂・購買の組声カードを分析し店舗の改善策を考察したりしました。学生委員や院生委員も参加し、楽しみながら進めることができました。



■『ほんでないかい2023』作品
募集中!!

今年度は、①本の書評、②おすすめめの映画紹介、③趣味紹介の3つの分野を募集します。学部生、院生、教職員の皆さん、あなたのおすすすめを300字程度で紹介してください！採用された方には1作品ごとに500円分の生協電子マネーを進呈します。応募は次のQRコードから！



▲書評はこちらから！



▲映画紹介はこちらから！



▲趣味紹介はこちらから！

留学生委員会

■留学生委員会、ついに復活!!

新型コロナウイルス感染症蔓延のためしばらく活動を休止していましたが、今年度から再度メンバーを募集し、活動を再開します。留学生の意見・要望を生協の店舗・サービスに反映すること、学生どうしの文化交流を活性化することを目的に活動していきます。今後は、留学生やその他の学生が親睦を深めるイベントの開催や留学生に生協の使い方を紹介するパンフレットの制作に取り組み予定です。乞うご期待！

■引き続き新メンバー募集中です！

生協をより良くするための議論に携わりたい留学生、留学生の活動をサポートしたい学生、文化交流に興味のある方ぜひ留学生委員会と一緒に活動しましょう！以下のフォーム(QR)からご連絡お待ちしております。

International Students Committee (ISC) is an organization in Hokkaido University Co-op. Our purpose is to support international students. We discuss cafeteria menus and purchasing items in the Co-op, and prepare events for students.

If you are interested in communicating with other students and learning about cultures, or you want to discuss how to improve service in the Co-op cafeteria and stores, please join us in the ISC!

You can contact us through the form below.



教職員委員会

■教職員総代会議…6月13・14日および7月10日・11日の昼休みにWeb会議により開催しました。書籍外売店の研究室訪問と印刷情報サービス店の今後について、2回にわたりの意見をいただきました。経営改善を行いつつ、教職員のみならずへのサービスはできるだけ低下させないよう、いただいた意見を活かして改善していきます。今後も総代会議でさまざまなテーマでご意見をいただくかと思いますが、引き続きどうぞよろしくお願いたします。

■教職員委員会…毎月の定例会議を開催し、きぼうの虹の編集および総代会議での意見について話し合いました。6月には新しい委員も増え、活動もより一層頑張っていくたいと思います。

■「きぼうの虹」…この冊子です。今月はカラーページを加えて、フォトコンテスト入賞作品を発表しています。またみなさまからの寄稿もお待ちしております。

【編集後記】

8月は学生たちも試験で大変ですが、教職員のみならずも試験対応や、その後の学会準備、科研費などで忙しくなっています。どうか体調管理にお気を付けてください。生協食堂でしっかりと昼をとっていただくのもおすすめです。なお生協各店舗は短縮休業となることもありますので、店頭のパスターやホームページでご確認ください。夏休みも引き続き研究で忙しい方を支えます。ご要望は組合員の声カードなどでお伝えいただけます。幸いです。

大学文書館へ 行こう

第16回

「数学者桂田芳枝」

北海道大学大学文書館 井上 高聡先生



桂田芳枝

五月に二度、桂田芳枝（一九二〇年）の旧蔵資料をご寄贈いただくため、余市町の桂田家へ行ってきました。現在は、芳枝の長兄のお孫さんが管理されています。寄贈いただいた資料は、研究ノート、書簡、証書類、写真、愛用のカメラ、海外出張用の鞆などです。

女性初の数学分野の理学博士

桂田芳枝は、現在の余市町の裕福な家庭に生まれ育ち、一九二八年小樽高等女学校（現小樽桜陽高校）を卒業、東京物理学校（現東京理科大学）、東京女子大学数学専攻部で数学を学びます。この間、二期、雇（現在の非常勤職員）として北大理学部数学科に勤務し雑用を

こなしました。このときに数学の講義を聴講する機会を得、大学に学ぶ女性の姿を見て、北大入学の夢を持つようになったそうです。

戦前の日本では女性が大学に入学することを制度上想定していませんでした。それでも大学進学を望む女性たちが、制度の枠を崩しながら、大学の門をくぐり抜けます。一九三三年に初めて三名の女性が東北帝国大学に入学しました。北大初の女性の入学は一九一八年です。桂田芳枝は一九四〇年に北海道帝国大学理学部数学科に入学しますが、北大に入学した十二名目の女性に当たります。入学後、桂田は河口商次教授に師事し幾何学を専攻して、一九四二年に卒業して助手となります。一九五〇年

七月には「高次空間の非ホロノミック系における展テンソルの作用について」により、数学分野で女性初となる理学博士号を取得します。十一月には北大初の女性の助教となりま。

数学者の研究生生活

一九五六年には、位相幾何学の大家、スイス連邦工科大学のハインツ・ホップ教授（二八九四～一九七〇年）に招かれ、共同研究を行います。研究以外の著述の少ない桂田ですが、ホップ教授との共同研究についてはいくつか回想を残しています。

ホップ教授から与えられた課題に取り組み、教授の家で議論した際、白熱して声高になっただけがありました。心配したホップ夫人が「どうしたので、お二人とも互いにノー、

ノーとばかりおっしゃって」と部屋に入ってきて、三人で笑い合っただけです。

教授から出題された拡張定理を得ることができて、桂田が説明し、教授と質疑を行なった後、ホップ教授は後手に窓の外を眺め、室内が暗くなるのも気づかない様子で十分程考え込んでから、にっこりしながら「very interesting very interesting」と言います。桂田はその日の夕食後、喜びにじっとしていられず、チューリッヒの夜の街を駆け回ったそうです。

その後も一九七〇年まで三度にわたってホップ教授の招待を受けて研究を共にしています。

北大初の女性の教授

この間、桂田は九六七年十月には理学部数学科の教授に就任しました。旧帝国大学では、前年に九州大学教養部教授に就任した城野節子に次ぐ二人目の女性教授の誕生です。学部講座担任教授としては最初です。

当時の新聞は、「私たちの仕事は、眠っているとき以外はいつも続いています」「思考がいちばん整理されるのは床の中」だから、昼間でも自宅にいるときは、床の中で考えることが多い。あるイメージが浮かぶと、飛び起きて数式で立証にかか



H・ホップ教授 (1962年)



桂田芳枝の研究ノートと教授室の表札

る。この「創造する瞬間が、最大の喜びだ」という。だが、その喜びはつぎの新しい問題に向けて瞬時に消えてしまう。そんなことの繰り返しで、世間のことにはほとんど没交渉に生きてきた」と伝えています。

桂田芳枝は、「女性初」という修飾語とセットで取り上げられます。この文中でも何度も繰り返しました。男女格差が大きなく、権威主義が幅を利かせがちな大学において、桂田は「ホップメイキングな存在です。けれども、桂田の回想、旧蔵資料を見渡したとき、それ以上に、「数学者としての姿が強く印象に残ります。余計な飾り言葉は必要ないのかも知れません。桂田芳枝の旧蔵資料は、今後、展示等で紹介していきたいと思っています。」